

【概要】2019年度活動報告

一般社団法人 全日本知的障がい者スポーツ協会

【2019年4月1日～2020年3月31日】

【月次報告】

月	内容
4月	<ul style="list-style-type: none">・基盤整備 ・労務関係の充実・2019INAS グローバル大会の派遣準備
5月	<ul style="list-style-type: none">・主要支援企業様への協力依頼・全国障害者スポーツ大会各予選ブロック共催・2019INAS グローバル大会の派遣準備・2023INAS グローバル大会の立候補におけるプレゼン（香港：5月3～5日）・2019INAS グローバル大会の事前視察（豪州：5月28日～6月1日）
6月	<ul style="list-style-type: none">・全国障害者スポーツ大会各予選ブロック共催・第1回社員総会及び第1回理事会開催（6月22日）・2019INAS グローバル大会の派遣準備
7月	<ul style="list-style-type: none">・営業活動 ・事務処理（各種準備）・2019INAS グローバル大会の派遣準備・第2回 2023INAS グローバルゲームズ横浜招致委員会（横浜市：7月25日）
8月	<ul style="list-style-type: none">・営業活動 ・事務処理（各種準備）・2019INAS グローバル大会の派遣準備
9月	<ul style="list-style-type: none">・第2回理事会開催（9月20日）※電子会議・第3回知的障がい者日韓スポーツ交流プログラム（9月20～24日）
10月	<ul style="list-style-type: none">・2019INAS グローバル大会の派遣（豪州：10月8～21日）
11月	<ul style="list-style-type: none">・2019INAS グローバル大会の報告書作成・事務所移転・新理事登記完了（11月12日）
12月	<ul style="list-style-type: none">・第3回理事会開催（12月9日）・支援企業様への年末報告・全国障害者スポーツ大会予選ブロック会計処理
1月	<ul style="list-style-type: none">・内閣府事業「世界青年の船」における講演（1月14日）・日経新聞（全国版：朝刊）に掲載（1月14日）・全国障害者スポーツ大会関東ブロック全体会議（川崎市：1月24日）・全国障害者スポーツ大会大会委員会（1月28日）
2月	<ul style="list-style-type: none">・営業活動 ・事務処理・スポーツ庁（国際課）と次年度以降の連携会議（2月10日）・税理士と会計処理に関する会議（2月13日）・高齢者施設における講演会（2月19日）・河北新報（朝刊）に掲載（2月24日）
3月	<ul style="list-style-type: none">・第4回理事会開催（3月28日）

【平成 31 年（2019 年度）度活動概要】

平成 31 年度（2019 年度）は、実に多くの事にチャレンジした 1 年であった。

まず、2018 年度から懸案事項であった、2023INAS グローバル大会の日本招致に関する事業に関して、2019 年度も引き続き多くの時間と議論を重ねてきた。しかし様々な理由から、最終的に断念せざるを得ない結果になったことは誠に残念である。このことは、日本のみならず日本開催を熱望していた各国においても同様であったと認識している。今回の経験を糧に、2027 年の日本招致に向けて関係機関と更なる調整・連携を行っていきたい。

一方、2019 年 9 月に開催した「第 3 回日韓知的障がい者スポーツ交流プログラム」に関しては、直近において政治的な要因が複雑に影響しており、実施そのものの可否も心配されたが、両国における不断努力の結果、予定通り開催することが出来た。しかも、結果的に、これまでにない長期間で開催することが出来、今後、この事実が両国にとって大きな自信となり、アジア地域における知的障がい者スポーツの更なる発展に寄与するものと確信をしている。

また、2019INAS グローバル大会（ブリスベン）の派遣も大きな事業の一つと言える。同派遣に関しては、日本パラリンピック委員会と連携しながら、当協会が派遣母体となり齋藤が日本選手団団長を務めるなど、多くの点で関わりを持つことになった。お陰様で過去最多の金メダル数（9 個）を獲得し、全体を通じて成功裡に終えることが出来た。しかし、全競技共、世界のレベルが上がりつつある現実を目の当たりにし、今後の更なる強化の必要性を感じた大会でもあった。そして、同大会期間中に実施された INAS アジア理事会においては、齋藤と谷口の両名がアジアの理事に就任し、特に齋藤においては「スポーツディレクター」の就任が決まった。

さて、国内に目を向けてみると、当協会ではこれまでも「全国障害者スポーツ大会のブロック予選（5 競技）」を共催しているが、10 月に行われる予定だった本大会（茨城県）は、台風の影響で同大会において初めて中止という事態となり、選手・スタッフなど関係者の落胆は相当なものであったことは想像に難くなく、非常に残念でしかたない。

次に、ANISA そのものの広報活動も積極的に行っている。大手新聞社の取材を 3 社ほど受けており、それらはいずれも紙面に掲載されるなど、一定程度の影響力を示す事が出来たのではないだろうか。また紙媒体だけでなく、SNS においても、障がい者関係で最も影響力があるとされる「障がい者.COM」にも記事が掲載されるなど、幅広く活動することが出来た。更に、内閣府や高齢者施設などにおいても講演活動を実施するなど、実務的にも充実した活動が出来たと考えている。

最後に、2018～2019 年度においては、国際的な活動がメインとなったが、2020 年度は、国内事業（特に全国障害者スポーツ大会の実施競技）を中心に調査研究及び支援を行って行きたいと考えている。

以上